

令和4年度第2回那須烏山市総合政策審議会会議録

■日 時：令和4年7月5日（火）午後2時～3時45分

■場 所：烏山庁舎 第2会議室

■出席者：12名

（審議会委員）

中村祐司委員、赤羽幸雄委員、中村泉委員、渡邊和枝委員、小田戸豊行委員、高橋信一委員、加藤光一委員、島崎健一委員、小堀恵美子委員、大橋誠委員、保知範繁委員、佐藤哲男委員

※欠席：3名（高橋正泰委員、大嶋照夫委員、水井智久委員）

（事務局）

○総合政策課：菊池参事兼課長、関主幹、郡司係長、川瀬主事、平山課長補佐、田嶋主査

■協議事項（概要）

（1）人口フレーム・将来人口について

郡司係長） 人口フレーム・将来人口について、資料に基づき説明。

コロナ禍による出生控え等を考慮した低い合計特殊出生率で推計して下方修正すべきか、コロナ禍はあくまで一過性の要因であると考え、コロナ禍以前の合計特殊出生率により推計した数値をそのまま使用するかについて、ご意見をいただきたい。

委員） 仮にコロナ禍が収束したとしても、完全にコロナ禍以前の数値に戻るわけではないと思うので、第2期人口ビジョンの数値とするのは適当でないとする。下方修正した推計値と第2期人口ビジョンの推計値の間を取るというのも1つではないか。

関主幹） 今回、コロナ禍により、全国的にも出生数が80万人近くになっており、本市においては100人を切っている状況。ご指摘のように、コロナ禍が解消されたとして、元の水準に戻るのかについては未知数。第2期人口ビジョンの推計値に近い形を維持したいという思いもあるが、市民に示す上では、根拠を示して説明する必要があるため、その根拠となる意見を委員の皆様からいただきたい。

委員） 目標という意味では、下方修正せずに、第2期人口ビジョンの推計値を採用してもいいかもしれない。

委員） コロナ禍を理由として将来にわたって下方修正してしまうのは行き過ぎのように感じる。間を取るという考え方もあると考える。

委員） 新型コロナウイルス感染症に対する新薬が開発されるなどして、状況が改善する可能性もあると考える。目標という意味では、第2期人口ビジョンの推計値を採用してもいいのではないかと考える。

委員） 厳しい状況の中、あまり高いところに目標を設定するよりも、ある程度抑えた目標設定とし、達成することで活力に繋がるという考え方もあると思う。

関主幹） 下方修正した推計値と第2期人口ビジョンの推計値の間を取ったシミュレーションを行い、次回お示しすることとしたい。併せて、今回の第3次総合計画は5か年の

計画となるので、5年後の数値についてもシミュレーションさせていただきたい。

(2) 本市の現状と課題について

郡司係長) 本市の現状と課題について、資料に基づき説明。

資料に挙げた以外に、こういった課題があるといったご意見があればいただきたい。

委員) 資料の中で分野ごとによくまとめられており、おおよその課題は網羅されているものとする。本市の特徴に鑑み、目標に優先度を設定するのもいいと思う。

委員) 本市は、他の市町に比べると、公園の整備も含め、インフラ整備が遅れている。新庁舎の位置を早く決めないと、周りのインフラ整備が進まない。インフラは財産だと思う。そろそろ進んで行かなければ、ますます市が寂れていってしまう。ぜひ今のタイミングで進めてほしい。烏山体育館が老朽化により使えなくなるという話を聞いたが、隣の那珂川町では新しいプールが整備され、非常に羨ましいと感じる。

委員) 市民意向調査では、誇りに思うものとして自然、歴史といった意見があったが、資料においては自然、歴史、文化に繋がるような課題の整理がされておらず、やや物足りないと感じる。歴史については、個人宅に多くの古文書が眠っているはずだと思う。それを専門家にきちんと研究してもらい、郷土史を作ることで、歴史ある街として知名度向上に繋がり、郷土愛を育むことにも繋がる。

委員) 本日の審議会に先立って、女性団体連絡協議会で行った意見交換会で出た意見について、いくつか紹介させていただく。「これからは、公共施設は駅の近くに作るべき。高齢化により車が運転できなくなっても、駅の近くであれば電車で行くことができる」「人口減少に歯止めをかける手立てを打ってほしい。企業誘致のほか、リモートワークを見据えた空き家のリノベーションなどによって若い世代を呼び込む」「烏山高校の烏山学は素晴らしい。高校生が地元目に向けて働きかけていくことで、地元愛着が生まれ、定着にも繋がる。こういった活動を小中学校でも取り入れてほしい」といった意見が出たところ。他に、市議会議員に対する疑問の意見も出ており、女性団体連絡協議会として、市議会議員と意見交換をする場を設けたいと考えている。

会長) 「協働」には市議会も含まれるのか。

郡司係長) 行政、民間、市民による協働なので、当然市議会も含まれるものとする。

関主幹) 市執行部と議会の両輪があって初めて市政運営が成り立つものであり、連携強化は必要となるので、そういった観点からの課題として挙げさせていただきたい。

(3) 第3次総合計画基本理念、将来像の検討について

郡司係長) 5年後の目指すべき将来像について、資料に基づき説明。

第3次総合計画において、従前の前例踏襲型市政運営を続けるか、市民の声に応えるために大きく踏み出して攻めの市政運営とするのか、この部分が市民に伝えるメッセージとして非常に重要であると考えているので、委員の皆様からご意見をいただきたい。

委員) 挑戦する気概を持った未来志向型の市政運営への転換を求めているとあるが、そのとおりだと考える。

委員) 本市の現状を変えていかなければならないという思いがあるので、攻めの市政運営への転換は非常に良いと考える。ぜひやっていただきたい。

- 委員) 周りの市民の声を聞くと、誰も守りの市政運営は求めている。失敗してもいいから、思い切っているいろいろなことを仕掛けてほしいという声をよく聞いている。やはり道の駅が欲しい。本市に道の駅を作っても売るのがないという話も聞くが、そんなことはない。茂木町では、町をあげて商品開発に取り組むことで、ヒット商品を作り出している。いろいろなアイデアを出して、どんどんトライして欲しい。
- 委員) 本市を住み続けることができるまち、ゆったり暮らせるまちにするためには、もっと必死になって挑戦していかなければだめだと思う。ここ数年新しいことが動いていない。市民は期待している。
- 委員) 攻めていくばかりでは疲れてしまうという考えもあるかもしれないが、さきほど意見にあったようなゆったりと過ごせる市を作るためにも、積極的に取り組んでいくべき。
- 関主幹) 5年後の目指すべき将来像としてキャッチフレーズを作るに当たって、こういうキーワードがあればわかりやすいといった意見があればいただきたい。
- 委員) SDGsの「持続可能な」というワードをいろいろな場面で耳にする。
- 委員) 「挑戦」というワードは強すぎて攻撃的な印象を受けるので、もう少し柔らかい表現で、例えば「上を向く」などポジティブで前進するイメージの言葉がいいのではないかな。
- 関主幹) 次回までにキーワードを集めた上で、それらをつなぎ合わせてキャッチフレーズを作り、いくつかの案をお示しすることとしたい。
- 郡司係長) 計画の基本理念について、資料に基づき説明。
事務局としては、基本理念についてはこのまま継続してはどうかと考えている。
- 委員) 「ひかり輝く」という言葉の意味はよくわからないが、人口が減少し、過疎化が進行する本市においては、官民が一体となってやっていかなければだめである。市民みんなが関わっていくという意味で、この基本理念を継続することで良いと思う。協働するためには、市民への情報提供、情報共有が不可欠であり、今まで以上に広報を充実させていく必要がある。
- 委員) 発信する側の市がこの基本理念でいきたいということであれば、実施する側のモチベーションにも繋がってくると思うので、賛成する。
- 委員) 現行の基本理念から「ひかり輝く」を除いて、「みんなの知恵と協働によるまちづくり」とするのもいいと思う。
- 委員) 「未来を照らす”まちづくり”」はいかがか。「ひかり輝く」はそこだけで光っているイメージだが、「照らす」には、未来を目標にして指し示すという意味と、未来に向けた期待の気持ちが市民を照らし導くという意味がある。
- 委員) 「未来を照らす」だと、目指す内容にも合っていると思う。「未来へつなぐ」とするのもいいのではないかな。
- 委員) 「未来へつなぐ」の方が、将来に繋がるイメージを持つことができるように感じる。
- 郡司係長) 将来都市構造について、資料に基づき説明。

事務局としては、これまでも推進してきた将来都市構造に基づき、10年後、20年後の将来を見据えたまちづくりのランドデザインを検討し、示していきたいと考えているところ。委員の皆様からご意見をいただきたい。

委員) JR烏山線の活性化を考えれば、駅前に何かしらの施設があった方がいい。その施設内には、市役所の市民窓口の機能があるとよい。駅前の空き家対策も必要。

関主幹) 補足説明になるが、旧烏山市街地、旧南那須市街地の2つの市街地が形成されており、市街地の活力が低下している。空き店舗が増え、公共施設が古くなり、道路も細いままになっている。中心市街地を活性化させることによって、地域の賑わいの再生が成り立つ。国が求めるコンパクトシティの考え方においてもそういった視点が求められているところ。したがって、旧烏山市街地及び旧南那須市街地の再生を図ることによって、那須烏山市の幹となる部分が整備できるのではないかと考えている。新しい場所に新市街地を作るということは、両市街地の衰退に繋がってしまう。両市街地の整備は堅持し、そこを繋ぐ公共交通ネットワークを充実させていくという構造は堅持したい考え。

委員) 空洞化した中心市街を活性化させるためのエネルギー、担い手をどうやって確保していくのか。40年後には人口が1万2000人にまで減少したときに、2つの拠点を維持できるイメージが湧かない。

関主幹) 人口減少を考えると難しいところはあるが、現時点で約2万4000人の市民が暮らす中において、今の両市街地の空洞化に手をを入れて再生を図り、活動の拠点を維持し、活力の低下を少しでも緩和できる対策を講じていく必要があると考えている。

委員) 5年後の目指すべき将来像のところでは、守りの市政運営から挑戦する気概を持った未来志向型の市政運営への転換を掲げていながら、計画の基本理念及び将来都市構造は継続する方向であり、繋がりが無いように感じる。

会長) 将来像のところを前向きでチャレンジングな内容とする一方で、基本理念及び将来都市構造は変えないという形もありなのではないかと思う。

■その他

関主幹) 第3回総合政策審議会では、今回出た意見を踏まえ、本日お示しした内容をブラッシュアップしてお示ししたい。開催時期については、9月定例会への対応も踏まえて、改めて調整させていただきたい。

以上、記録とする。